

令和6年度 コンソーシアムとくしま 就業体験型インターンシップ 受け入れの手引き

① 就業体験型インターンシップとは	・・・2
② 学生の募集（4月～5月）	・・・4
③ マッチング（6月～7月）	・・・6
④ 就業体験の提供（8月～9月）	・・・8
⑤ フィードバック（9月～10月）	・・・9
⑥ 受け入れ終了後（10月～）	・・・11
（参考資料）昨年度受入企業募集票	・・・13

2024年4月

徳島大学 COC+R 事業事務局作成

z

本プログラムについてのお問い合わせ先

徳島大学 COC+R 事業事務局（tel. 088-656-9885）

担当教員：川崎修良（人と地域共創センター特任准教授）

（メールアドレス）siukawa3@tokushima-u.ac.jp

① 就業体験型インターンシップとは

就業体験型インターンシップは、コンソーシアムとくしまが徳島県内に事業所を持つ企業と共に企画するインターンシップの一つで、徳島大学が事務局となって実施しています。就職活動を控えた学生にとって効果的な学びとなるように、受入企業における3日～5日間の就業体験と合わせて徳島大学が事前学習や振り返りを提供します。

●プログラムの目的

本プログラムは、参加する学生・受け入れ先となる企業・団体等（以下「受入企業」）の双方にとっての学びの機会を目指しています。学生には「その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める」機会を提供し、受入企業には「採用選考における評価材料」や「インターンシップ設計力の向上」を得てもらうことを目的とします。

プログラムに参加する学生の目的	県内企業の提供する短期間の就業体験への参加と事前事後学習を通じて、「その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める」
プログラムに参加する企業の目的	① 参加学生の個性や適性を観察し、「マッチング精度向上や採用選考を視野に入れた評価材料の取得」を行う。 ② 企業の目的と学生のニーズの双方に沿ったインターンシップを設計・運用する力を向上させる。

●対象となる学生・受け入れ先

対象となる学生は主に徳島県内の大学に所属する大学生です。うち、徳島大学生については授業科目に取り入れています。また、令和5年度については県外大学に通う大学生（徳島県にUIJターン志向のある方）も対象となります。こちらは徳島県の事業「とくしまUIJインターンシップ」として実施し、徳島県までの交通費の支援が行われます。受入企業については、県内に事業所を持ち、県内で就業体験が提供できることが条件となります。

対象となる学生	<ul style="list-style-type: none">○ 県内大学に通う学部2、3、4年生、大学院修士1、2年生（主たる対象は学部3年生・修士1年生）○ 県外大学に通う学部1、2、3、4年生、大学院修士1、2年生（徳島県にUIJターンする意向のある方）
受け入れ先となる企業・団体等	<ul style="list-style-type: none">○ 徳島県内に本社もしくは事業所を持ち、県内で就業体験を提供できる企業・団体等

●インターンシップの受け入れ期間

インターンシップの受け入れ期間は夏季休暇中（8月1日～9月30日）の3～5日間となります。原則として5日間までといたします。それ以上の長期間をご希望される場合は事前にご相談ください。

●スケジュール

受入企業は、「募集票の作成」「マッチング」「学生受け入れ」「フィードバック」の4つの手順でプログラムに参加していただきます。また、年度末には受入企業からご意見をいただきつつ、今後のインターンシップについて考える場も用意しておりますので、合わせて参加をご検討ください。

時期	受入企業の動き	学生の動き
4月～5月	●募集票の作成（→P4参照） 学生に就業体験の内容を伝えるための募集票を作成していただきます。必要に応じて担当教員が学生に伝わる案内作成に向けた相談を受け付けます。	授業履修登録（4月・徳島大学） 企業リスト公開（5月下旬）
6月～7月	●マッチング（→P6参照） 参加希望の学生のエントリー内容（希望動機等）を参考に、インターンシップに参加する学生を選考し、マッチングした学生と連絡を取って受け入れ準備を進めていただきます。	エントリー提出（6月中旬頃） 事前学習の受講 マッチング企業との日程調整 誓約書の提出
8月～9月	●就業体験の提供（インターンシップ）（→P8参照） マッチングした学生に3日～5日間の就業体験を提供していただきます。学生は大学が用意する事前学習を受講の上で参加します。	インターンシップへの参加
9月～10月	●フィードバック（→P9参照） インターン終了後、受け入れ生に社会人としての基礎力の観点からアドバイスを作成いただきます。受け入れ生からは得られた学びや成長等を振り返ったレポートをお返しします。	振り返りレポートの作成
2月～3月	●意見交換（→P11参照） 今後のインターンシップを考えるシンポジウム「FD 地域人材育成フェスタ」を開催します。是非ご参加いただきご意見ください。	

（参考）産学協議会における「汎用的能力活用型」インターンシップの考え方

本プログラムは経団連が主導する「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の中で行われた「学生のキャリア形成支援における産学協働の取組み」の検討（2022年4月発表）の中で、インターンシップの定義として類型化された「タイプ3」の「汎用的能力活用型」インターンシップに準拠させました。

「タイプ3：汎用的能力活用型インターンシップ」の特徴（産学協議会作成のリーフレット「産学で変えるこれからのインターンシップ」（https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039_leaflet.pdf）から抜粋）

- 学生の参加期間は5日間以上（事前学習等を含む）
- 就業体験は必須。学生の参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験する。
- 実施場所は職場（テレワークが常態化している場合、テレワークを含む）。
- 実施時期は長期休暇期間。
- 職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後にフィードバックを行う。
- 募集要項等において、必要な情報開示を行う。
- 取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」
- 実施時期は学部3・4年、修士1・2年の長期休暇期間
- 応募要件を透明化し、学業両立に配慮した選抜プロセスを行う

② 学生の募集（4月～5月）

学生にインターンシップに興味を持ってもらうためには、業界の動向・職種の特徴・経験できる職能などの情報も交えて就業体験の内容を説明し、具体的にどのような経験や学びが得られるかを伝える必要があります。学生に魅力が伝わる募集になるよう担当教員も一相談をお受けしつつ、受入企業にインターンシップの案内を作成いただきます。

●募集票の作成

学生を募集するにあたって受入企業にインターンシップの内容を紹介する募集票を作成していただきます。以下、ご記入にあたっての留意事項を参考に次頁の募集表をご記入いただき、**5月13日（月）までに**担当教員までデータでお送りください。（昨年度学生に公開した募集票を送付いたします。ご参考ください。）

【募集票への記載にあたっての留意点】

受入担当者名・連絡先	教員や学生との連絡・調整の窓口となる社員の方をご設定ください。こちらに記入いただいた担当者を通してインターンシップ受け入れの調整を進めます。
対象学生	対象となる学生をご選択ください。県内の大学（徳島大学・徳島文理大学・四国大学）に通う学生の他、短期大学生・高専生（四国大学短期大学部、徳島工業短期大学、阿南高等専門学校）、県外の大学に通っているが徳島県への UIJ ターン志向のある学生についても本プログラムの対象となります。
受入先住所・徳島市内からの交通手段	受け入れたインターン生が通勤することになる事業所の住所についてご記入ください。送迎等が可能であるようでしたら、その旨もご記入ください。
インターンシップの期間	8月1日～9月30日の間で受け入れ可能な日をご記入ください。学生のマッチング後（7月上旬）に、記入いただいた日程の中から3～5日間の受け入れ日をご調整いただきます。
企業（部局・事業所）の特徴	学生に魅力を感じてもらうために、「事業内容」や「仕事内容」だけではなく、「将来の展望や可能性」「社長や社員の考え方」「業界・業種の中での個性」「組織のカラー」「商品・技術力」「職場の雰囲気」といった会社や仕事の理解が深まる情報をご紹介ください。
本インターンシップで得られる経験	多くの学生は「インターンシップに参加することでどのような経験が得られるか」を重視して本プログラムに参加します。どのような業種におけるどのような過程や職務が経験できるか、できるだけ具体的にご記入ください。また、社員の方との交流や仕事に対するフィードバック等の機会等があるようでしたら合わせてご紹介ください。
応募する学生に求めること	対象となる学生をしっかりと絞ることも、応募に興味を持っていただくポイントになります。これまでの学生の経験（CADの使用経験、マーケティングの知識、等）、興味（広報の仕事への関心、顧客へのプレゼンへの関心、等）、将来の職種の希望（理系学生、製造業への就業希望者、等）などの条件や、参加にあたっての心構え等がありましたらご記入ください。
勤務にあたっての規則	服装や勤務時間等の指定など、インターン生として就業体験をするにあたっての規則等をご記入ください。
その他、応募者にお伝えしたいこと	その他、応募を検討している学生に伝えたいことがありましたらこちらの欄にご記入ください。

就業体験型インターンシップ募集票

基本情報（事務局内での使用のみで一般には公開いたしません）

受入担当者名・部局・役職	
受入担当者電話番号	
受入担当者メールアドレス	
対象学生[複数選択可]	<input type="checkbox"/> 県内大学生（徳島大学、徳島文理大学、四国大学、鳴門教育大学） <input type="checkbox"/> UIJ ターン志向のある県外大学生 <input type="checkbox"/> 高専生、短期大学生（四国大学短期大学部・徳島工業短期大学、阿南高等専門学校） <input type="checkbox"/> 留学生についても積極的に受け入れたい

企業情報（応募学生への案内として公開させていただきます）

企業名	
企業サイト	
受入先住所（事業所）	
徳島市内からの交通手段	
受入先部局名	
募集人数	
インターンシップの期間	
企業（部局・事業所）の特徴 （200～300 字程度）	
本インターンシップで得られる経験 （200～300 字程度）	
応募する学生に求めること N	
勤務にあたっての規則 （服装や勤務時間等の指定）	
その他、応募者にお伝えしたいこと	

* 上記をご記入の上、企業の特徴や職場の様子がわかる写真 1 点と合わせて担当教員までご送付ください。

* 枠内に書ききれない場合は適宜広げてご記入ください。

【フォームによる提出方法】

下記リンク先のフォームからもご提出可能です。

（入力フォームリンク先）

<https://forms.gle/XuEiSnxTzFT1fa56A>

*右のバーコードを読み取るとリンク先が表示されます



③ 応募学生とのマッチング（8月～9月）

プログラムに参加を希望する学生は募集票の内容を参考に企業ごとに応募を行います。受入企業は学生の作文（応募先で活かせる経験と得たい学び）を参考に、インターンシップに参加する学生を選考し、マッチングした学生と連絡を取り合って受け入れの準備を進めます。

●応募受付と企業での選考

応募学生の応募受付は徳島大学で行います。その後、担当教員より受入担当者に応募学生の情報（氏名、連絡先、所属大学・学部・学科等、学年、希望する日程、作文「応募先で活かせる経験と得たい学び」）を送付します。受入企業は応募書類を参考に選考を行い、受け入れたい学生を担当教員にお知らせください。徳島大学において最終調整を行い、参加学生を決定します。

5月中旬：Webサイトでの企業リスト公開

6月中旬：学生の応募締め切り

6月下旬：受け入れ企業における選考

7月上旬：参加学生の決定

7月中：日程調整・事前学習・誓約書の提出

8月～9月：インターンシップの実施

（応募にあたっての作文課題：「応募先で活かせる経験と得たい学び」）

- 本プログラムに応募する学生には、応募先ごとに以下の作文を提出していただきます。
「応募するインターンシップの業務に臨むにあたり、あなたのこれまでのどのような経験が活かされますか。また応募するインターンシップを通してどのような経験や学びが得たいと考えますか。」（400字以上）

●参加学生の決定と事前手続き

参加学生が決定したら、受入企業から参加学生に連絡を行い、インターンシップの日程調整を行っていただきます。また徳島大学から学生に事前学習の提供を行い、学生は受入企業に誓約書（次頁）を提出します。事前学習と誓約書の提出が完了した学生がインターンシップに参加することができます。（*手続きの簡略化のため、誓約書は徳島大学で管理させていただき、受入企業にはスキャンした写しをお送りさせていただきます。）

（徳島大学が提供する事前学習のプログラム）

- インターンシップの受け入れが決まった学生には以下の事前学習を提供し、目的意識を持って主体的に参加することを促します。事前学習はオンライン（一部対面）にて実施します。
 - 事前学習①：テーマ「インターンシップは成長のための効果的な手段」
→インターンシップに目的を持って参加してもらうことを促します。
 - 事前学習②：テーマ「自己理解とビジョンの確認」
→自身の将来的な目標と、インターンシップや仕事の経験のつながりを考えてもらいます。
 - 事前学習③：テーマ「自身の現状と課題の把握」
→自身の強み・弱みを確認し、インターンシップを通して必要となる成長を考えてもらいます。
 - 事前学習④：マナー講習
→実際の職場で就業体験を行うにあたって必要となるマナーを確認します。

インターンシップにおける誓約書

令和 年 月 日

△△株式会社 御中

[]大学

[]学部

[]学科

氏名 _____ ⑩

私は貴社（機関）において就業体験型インターンシップを受けるに当たり、下記の事項を厳守することを誓います。

記

1. 貴社（機関）でのインターンシップ期間中は、貴社（機関）の就業規則を守るとともに、職務遂行に当たっては、研修担当者の指示に従い、職務に専念します。
2. 私は、インターンシップ生として貴社（機関）の信用を傷つけ、または不名誉となるような言動はいたしません。
3. 私は、インターンシップ上知り得た貴社（機関）の機密事項並びに顧客の個人情報を、インターンシップ中及びインターンシップ終了後においても一切外部に漏らしません。
4. 私は、インターンシップ中に万一災害を受けた場合、予め加入する保険をもって充てる他、貴社（機関）およびコンソーシアムとくしまと共に誠意を持って問題の解決に当たります。
5. 私は、本インターンシップは、貴社（機関）の採用選考活動とは無関係であることを承知しています。

以上

④ 就業体験の提供（8月～9月）

マッチングした学生に対し、3日～5日間の就業体験を提供していただきます。就業体験期間のプログラムは基本的に受入企業と学生の間で直接進めていただきます。学生にはインターンシップ中の事故や災害が起こった場合の損害に対応した保険の加入を義務付けていますが、受入企業でも予め不測の事態についての対応をご検討ください。

●インターンシップ生の受け入れ

インターンシップの実施日になりましたら、学生の受け入れをお願いいたします。基本的には受入企業と学生で連絡を取り合って、インターンシップを進行していただきます。インターンシップは、1日につき6時間以上を目安に就業体験を提供いただくようお願いいたします。プログラム修了には3日間以上の就業体験が必要となります。受入担当者は学生を監督し、終了後に学生の勤務状況をご報告ください。無断欠席や連絡が取れない等の場合は担当教員にご連絡ください。

●インターンシップ中の事故や災害について

インターンシップ中に事故や災害が起こった場合は速やかに担当教員もしくはCOC+R事業事務局にご連絡ください。インターンシップ中に学生が損害を受けた場合や、他者または受入企業に対して損害を与えた場合について、学生には災害保険と陪席保険への加入は義務付けておりますが、万一の場合は受入企業においても誠意を持って問題解決に当たっていただきますようお願いいたします。

（学生が加入している保険について）

- 県内生（徳島大学生・徳島文理大学生・四国大学生）は、公益財団法人日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究賠償責任保険」（<http://www.jees.or.jp/gakkensai/>）に加入しています。
- 県外生（とくしまUIJインターンシップ生）については、上記「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究賠償責任保険」の加入の有無と適用の可否を所属大学に確認を行います。適用されない場合、東京海上日動の総合生活保険（傷害補償+個人賠償責任補償特約）に加入します。これにより、学生は教育研究活動中（本インターンシップを含む）に被った傷害と賠償に対し一定の補償を受けられます。

*インターンシップ生が労災の対象となる労働者となるかどうかについては、労基署が個別具体的に状況などを整理したうえで判断することになります。労災の対象にならなかった場合も、受入会社は学生に対して安全配慮義務を負っていると考えられますので、災害の発生に安全配慮義務違反がある場合は会社に対する損害賠償請求の対象となりますのでご注意ください。

⑤ フィードバック（9月～10月）

インターンシップが終了したら、学生に向けたフィードバックを作成します。用意したフィードバックシートでは経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の考え方に基づいて学生を評価していただきます。基準に沿って評価することで、受入企業においても採用選考を視野に入れた評価材料を取得する機会となります。

●フィードバックシートの記入

受け入れ終了後にインターンシップ生に向けたフィードバックシートへのご記入をお願いいたします。評価は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」の3つの能力「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を基に作成しました。次頁にシートの内容を掲載しますが、ご提出の際はリンク先のフォームからご記入ください。

（社会人基礎力について）

「社会人基礎力」とは経済産業省が2006年に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として提唱した考え方で、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されています。詳細は経済産業省のサイト「社会人基礎力」（<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>）をご参照ください。



前に踏み出す力 ・ 一歩前に踏み出し失敗しても粘り強く取り組む ・ 指示待ちにならず一人称で物事を捉え行動できる	主体性	物事に進んで取り組む
	働きかけ	他人に働きかけ巻き込む
	実行	目的を設定し確実に行動する
考え抜く力 ・ 自律的に疑問を持ち考え抜く ・ 自ら課題提起し解決のためのシナリオを描く	課題発見	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画	課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する
	創造	新しい価値を生み出す
チームで働く力 ・ 多様な人々とともに目標に向けて協力する ・ 多様な人々との繋がりや協働を生み出す	発信	自分の意見をわかりやすく伝える
	傾聴	相手の意見を丁寧に聴く
	柔軟性	意見の違いや相手の立場を理解する
	状況把握	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する
	規律性	社会のルールや人との約束を守る
	ストレスコントロール	ストレスの発生源に対応する

●フィードバックシートの提出方法

フィードバックシートは、下記リンク先のフォームからご記入ください。インターンシップ受け入れ終了後、1～2週間以内を目処にご提出ください。

（入力フォームリンク先）

<https://forms.gle/Yzvx4pEJWow23EhM9>

*右のバーコードを読み取るとリンク先が表示されます



インターンシップ生へのフィードバックシート

実習生氏名	
企業名・団体名	
受入担当者名・役職	
受入担当者メールアドレス	
実習日	(1日目) 月 日 (必須) (2日目) 月 日 (必須) (3日目) 月 日 (必須) (4日目) 月 日 (5日目) 月 日
担当した部署・職務	
前に踏み出す力の評価 (主体性、働き掛け力、実行力)	1 2 3 4 5 6 7 * 7段階評価でいずれかに○をおつけください。(1は初年度の社員として十分な水準、4はインターン生としては期待に沿う水準、7は今後の努力を要する水準)
上記質問についてそのように評価した理由をお教えてください。	
考え抜く力の評価 (課題発見力、計画力、創造力)	1 2 3 4 5 6 7 * 7段階評価でいずれかに○をおつけください。(1は初年度の社員として十分な水準、4はインターン生としては期待に沿う水準、7は今後の努力を要する水準)
上記質問についてそのように評価した理由をお教えてください。	
チームで働く力の評価 (発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)	1 2 3 4 5 6 7 * 7段階評価でいずれかに○をおつけください。(1は初年度の社員として十分な水準、4はインターン生としては期待に沿う水準、7は今後の努力を要する水準)
上記質問についてそのように評価した理由をお教えてください。	
強み/長所と考えられる点	
今後努力を要すると考えられる点	
実習生の今後の成長に向けたメッセージ (任意)	

⑥ 受け入れ終了後（10月～）

受け入れ終了後インターンシップ生は振り返りのレポートを作成します。受入企業にも共有いたしますので、今後のインターンシップの改善に向けた参考等にご使用ください。また、年度末（2～3月頃）にはインターンシップのあり方を考えるシンポジウムを実施します。企業・団体の皆様の意見を今後の事業に反映させていきますのでぜひ参加をご検討ください。

●インターンシップ生による振り返りレポートの作成

インターンシップ終了後、学生は振り返りレポートとアンケートを作成し担当教員に提出します。提出された内容は教員が取りまとめ、受入担当者へ送付いたします。今後のインターンシップの改善に向けた参考等にご使用ください。

（振り返りレポートの質問）

- 「インターンシップを終えて、変化・成長した点を具体的に述べるとともに、社会人に向けて新たに必要と気づいた在学中のキャリア形成課題とその解決策を述べてください。」（400字程度）
- 「卒業後の具体的な仕事のイメージと、なぜその仕事をしたいのかという志望理由について、事前学習で考えた「人生の目的」と「自分の長所の役立て方」を参照しつつ述べてください。」（400字程度）

（アンケートの質問）*一部抜粋

- 本プログラムは、これから自身が希望するキャリアに必要な能力・学び・経験等を考える機会となりましたか？またそのように答えた理由を教えてください。（十分にそう思う／少しそう思う／そう思わない／全くそう思わない）
- 上記質問について、そのように答えた理由を教えてください。
- 本プログラムで参加したインターンシップについて、応募段階で期待していた学びや経験は得られましたか？またそのように答えた理由を教えてください。（十分に得られた／少し得られた／得られなかった／全く得られなかった）
- 本プログラムについて、より多くの学びが得られるために改善が必要な点があれば教えてください。

●今後のインターンシップのあり方を考えるシンポジウムへの参加

コンソーシアムとくしまでは年度末（2～3月頃）に、本プログラムを含めた企業と共創するインターンシップ等のあり方を考えるシンポジウム「FD 地域人材育成フェスタ」を実施しています。例年インターンシップの受け入れ企業にも参加いただき、来年度に向けた改善点や今後必要なプログラムについて意見をいただいています。全国の大学や企業の先進的な取り組み等もご紹介いたします。実施が近づいて参りましたらご案内いたしますので、本インターンシップの受入担当者につきましてもぜひご参加ください。忌憚ないご意見をいただきますようお願いいたします。